
教育総合センター

だより

NO. 129

平成 25.9.1

「若い先生を育む学校」

尼崎市立北難波小学校

校長 宗 和 一 隆

多くの学校には、若い先生が勤務されており、休み時間等に子どもたちとのふれあいを通して、先生も子どもたちも生き生きとした姿をよく見かけます。

本市の小学校においては、34才以下の先生が50%を占めています。どこの学校においても、若手の先生の育成に力を入れている所が多いと聞きます。

私は先生にとって必要なことは、次の2つだと考えています。

1つ目は、「子どもが好きであること。」
今、目の前にいる子どもたちのために尽くすことができるかどうかです。

2つ目は、「人から学ぶ謙虚な気持ちと素直な心」です。自分にわからないことが出てきたら人に聞けること、「ありがとう」「すみません」という言葉が出せること等、そのような先生には、必ずだれかが助けの手を差し伸べてくれます。また、このような気持ちであれば、先生としての力量も高められるし、子どものことを考えた学級経営ができるはずです。



さて、学校には若い先生を育む環境づくりが必要です。そのためには、若い先生が自由に発言でき行動できる職場であること、先生同士の関係が良いこと、授業改善や生徒指導等に切磋琢磨できる仲間がいること、若い先生の話聞いて、方向性を示し指導するベテランの先生がいること、和気あいあいとした雰囲気の中で本音を吐けること、職員室にもどった時ほっとできることなどが考えられます。

最後に、先生はどんな時でも、子どもに寄り添うことが大事です。「字が上手になったね。」「計算がはやくなったね。」とか、子どもの努力の成果が出たときは、間髪入れずに誉めることです。信頼している先生からの一言が子どもにとって『神の声』であり、一生の支えになります。

先生という仕事に誇りを持って、子どもを認め、きちんと誉めるという姿勢をもって、「ふるさと尼崎が好きな子ども」を育てていきたいものです。

特別臨時研修から

教育総合センターが実施している研修には、大きく分けて、次の3種類の研修があります。

職階や職務、経験年数に応じて必ず受講しなければならない「基本研修(研修)」、

夏季休業中などに実施し、希望により受講する「専門研修(研修講座)」。

そして、課題に対し迅速に対応するために実施する「特別臨時研修」。

これらの研修の中から、今年度実施した特別臨時研修について、紹介します。

1 「文化部活動顧問研修会」(4月22日実施)

昨年度より、クラブ活動の指導者による体罰が、マスコミを賑わし、世間の大きな関心事となりました。

教育総合センターも、この事態を重く受け止め、学校体育担当と協力し、クラブ顧問を対象とした体罰防止のための研修を、昨年度(3月18日、22日、運動部顧問対象)から実施して参りました。

講師に、ヒューマンプロデューサーの長谷川一彌氏をお迎えし「体罰禁止の徹底について」「部活動の適切な指導について」をテーマに、講話していただきました。

市内の中・高等学校から、3回の研修で、のべ500名以上の部活動顧問が参加し、熱心に講話に耳を傾けました。

長谷川氏も、ご自身の体験と脳科学理論をもとに、『指導者側の思いと生徒の出す結果が、一致しない場合がある。そこをどう埋めるのかが、教育であり、指導なのです。』と熱心に話されました。

受講者からも『脳科学の観点から行動の持っている意味を考えることの大切さが良く理解できました。部活動の指導もさることながら、普段の授業でも活かせるような所もありました。今後、参考にしていきたいと思います。』との声が寄せられ、本研修の意義深さを再認識しました。

2 「アレルギー疾患対応研修」(5月30日実施)

アレルギー疾患のアナフィラキシーショックによる学校事故が、全国各地で起こり対応研修の早

期実施が望まれていました。

これを受け、兵庫県教育委員会は、3月に冊子『学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル』を作成し、各校に配布しました。

そこで、学校保健課と協力して、校・園長、養護教諭、栄養教諭、一般教職員を対象にアレルギー疾患対応研修を行うことになりました。

今回は、その最初の研修として、全校園長を対象として研修会を行いました。

講師に、対応マニュアル編集委員長であり、神戸市立医療センター小児科医長の岡藤郁夫氏をお迎えし、「学校におけるアレルギー疾患への対応」「エピペン(アナフィラキシー補助治療剤)の使用法」をテーマに講話していただきました。

子どもの生命に関わる課題であるため、参加された校園長の先生も、非常に熱心に演習に取り組まれていました。また、講義後の質疑応答は30分にも及び、この研修の重要性と、参加者の意気込みがひしひしと伝わってきました。

この研修は6月に養護教諭、栄養教諭を対象とした基本研修でも実施し、8月には全教職員を対象に実施しました。

教育総合センターでの、喫緊の課題に対する迅速な研修の実施は、県内各機関からも高い評価を得ております。「今、必要な知識は何か?」「今、求められる技能は何か?」これらを、日々、自問自答しながら、研修の企画運営を行っております。

教職員の皆様からの、ご意見ご要望をいただきながら、さらなる研修の充実をめざしてまいります。

(研修担当指導主事 仁科 良久)



子どもとの関わり方について

今、教育の現場では様々な問題が激増しています。社会の急速な変化や家庭の多様化から、これまでの教育や子育ての経験だけでは対応が難しい問題が多くなっています。昔と比べると、今の子どもたちは恵まれていて一見幸せそうに見えますが、実は心理的に追い立てられる想いが強くなっていて、悩み苦しんでいる子どももいます。だから、教員や保護者が共感的なまなざしで観る必要があります。

さて、ここで問題です。

休み時間に、校庭の片隅で、下を向いて座っている一人の子どもがいます。どうしたのでしょうか？

みなさんは、どう思われますか。たとえば、(アリの観察をしている。身体の不調が良くない。疲れたので休憩をしている。激しく身体を動かして遊ぶことができない。仲間外れにされている。一緒に遊びたいのだけれど、仲間に入れない。直前に嫌なことがあった。家で嫌なことがあった。)などが考えられます。この様に、同じ状況でも、いろいろなケースが考えられます。

「いきなりどうしたの?」と思うかもしれませんが、子どもは必ず事前にサインを発しているものです。普段の子どもの様子をよく知ってこそ、変化に気づくことができます。子どもは、SOSがうまく言えません。だからこそ、日ごろからよく子どもの様子を観察して、身体や行動に現れるサインを見逃さないようにしてください。そして、日ごろから子どもの話をじっくり聞き、同じ目の高さで考え、深い関心を払うといった姿勢を教員や保護者が身につけることで、子どもは教員や保護者に愛されている実感を得ることができます。子どもは愛されていると感じている時、安定した気持ちで問題に立ち向かうことができます。日ごろから、子どもが愛されていると実感できるコミュニケーションを心がけ、子どもが身近に感じることでできる教員、保護者になってください。

また、気になる子どもに出会った時は、(

「問題を起こす。だから子どもという。」と余裕をもつ。自分の指導の反映ではないか。

自分の思いに強くとらわれていないか。何か深いわけがあるのではないか。)と考えながら、対応にあたきましょう。

そして、気になる子どもに接する時は、(「この子は悪くない。」と味方になる。肯定的に子どもをとらえる。問題の背景をつかむ。丸ごと共感する。全面的に受け入れる。愛情をもって接する。)などを心がけてください。

その時、子どもへの適切な声かけも大切です。言葉は、魔法です。一言が子どもの心を温めたり、一言で子どもの心を傷つけたりします。

自己評価の低い子どもには、がんばりを認めてねぎらうことが必要です。子どもなりに一生懸命やっているときに、「もっとがんばれ」と言われるよりも「がんばってるね」「よくがんばったね」と言われるほうが、子どもの心にすっと入っていきます。また、自分なんか何の役にも立たない、何の取りえもないと思っている子どもは、「ありがとう」と言われると、人の役に立てた、自分にもできることがあるのだとすごくうれしそうな顔をします。良いところを見つけてほめ、自信を持たせましょう。ダメなところを責めるより、良いところを増やしていく方がいいでしょう。やる気を奪う否定的な言葉は使わないように気をつけましょう。

「教育相談担当」では、身近で気軽に相談できる環境を提供することで、子ども本人の成長を促し、保護者の孤立感を軽減することにより、本人・家庭・学校への支援につながるよう努めています。今後も学校との連携をさらに深め、各校の教育相談体制づくりを支援してまいります。

<参考文献>

- ・ 文部科学省『家庭教育手帳』(兵庫県版)
- ・ 家本芳郎『学級担任ノート』(民衆社)
- ・ 明橋大二『輝ける子』(一万年堂出版)

(教育相談担当係長 井上 満夫)

教育情報コーナーへどうぞ

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育総合センターでの研修や会議の時など、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

今回は、変化に対応するための本を新刊の中からご紹介します。

(情報コーナー担当・幾田)

*** 国語の授業が変わり始めました。言語活動、古典の学習等々……ぜひ参考に**

『小学校国語科 授業&評価パーフェクトガイド』

水戸部修治編著 / 明治図書

『1日10分の言語活動！伝え合う力を育むコミュニケーション・トレーニング』

和歌山県紀美町立美里中学校編著 / 東洋館出版社

『国語指導必携 小学校 古典指導の基礎・基本』

田中洋一著 / 図書文化社

『名句を読んで写して楽しくつくる 俳句ワークシート集』

小山正見著 / 学事出版

*** 子どものからだと心、チョット心配ですね**

『四快のすすめ～子どもの「快眠・快食・快便・快動」を取り戻す』

神山 潤 / 編 新曜社

『親子のストレスを減らす15のヒント～保育・教育・福祉現場の保護者支援』

高山恵子 / 編著 学研教育出版

『行為障害と非行のことがわかる本』

小栗正幸編 / 講談社

*** ネット社会への適応力は子どもたちほど高いだけに、**

『ひと目でわかる～最新情報モラル 第2版』

大橋真也他 / 編 新曜社

『ほんとうにいいの？デジタル教科書』

新井紀子 / 著 岩波書店

視聴覚教材・教具の活用を推進します

本年度も、16ミリ映写機と16ミリフィルムの活用を推進しています。講習会は10月24日(木)に行います。講習会を受けていただいた方に{認定証}をお渡しして、貸し出しに応じています。また、「出前上映会」も行い、上映と講習会を各施設で行うことも可能です(昨年度は数カ所「出前上映会」を行いました。)

また、最近ではDVDを4本購入しました。「柿山伏(狂言)」に続いて

「化けくらべ」(楽しさと共に「心」を育てる民話)

「ひとみ輝くとき」(「いじめ」や「虐待」を考える作品)

「ガキ大将行進曲」(弱い者いじめをするガキ大将がいました……)

「おむすびころりん」おじいさんの手からおむすびがすべって穴に落ちました……)

以上の作品もご活用下さい。

(フィルムライブラリー担当 上玉利)